令和七年　第三回例会

観世流

緑泉会

九月二十八日（日）

午後一時開演（正午開場）

矢来能楽堂

「三輪」
シテ 坂 真太郎（撮影 駒井壮介）

「藤戸」
シテ 鈴木 啓吾（撮影 駒井壮介）

能 Noh …… 三輪 Miwa …… 中所 宜夫

狂言 Kyougen … 瘦松 Yasematsu …… 石田 幸雄

能 Noh …… 藤戸 Fujito …… 鈴木 啓吾

令和七年　第三回例会　番組

能　三輪

里女 三輪明神　中所 宜夫

玄賓僧都　則久 英志

里人　深田 博治

後見　石井 寛人　永島 充

大鼓　柿原 光博　太鼓　林 雄一郎

小鼓　飯田 清一　笛　栗林 祐輔

地謡　奥川 恒成　中森 健之介　筒井 陽子　中森 貫太　新井 麻衣子　坂 真太郎

【休憩二十分】

狂言　瘦松

山賊　石田 幸雄

女　石田 淡朗

後見　月崎 晴夫

地謡　金子 仁智翔　奥川 恒成　桑田 貴志　石井 寛人

仕舞　菊慈童　墨 敬子

雨月　中入前　津村 禮次郎

錦木　キリ　坂 真太郎

【休憩十五分】

能　藤戸

漁師ノ母　漁師　鈴木 啓吾

佐々木 盛綱　宝生 常三

盛綱ノ下人　野村 遼太

後見　新井 麻衣子　津村 禮次郎

大鼓　安福 光雄

小鼓　田邊 恭資　笛　一噌 庸二

地謡　金子 仁智翔　桑田 貴志　石井 寛人　奥川 恒治　筒井 陽子　永島 充

付祝言

【終演予定　午後四時四十分】

許可のない録音、撮影は一切禁止です。携帯電話は電源からお切り下さい。
演能や他のお客様の迷惑となる行為はご遠慮願います。場合によっては退場頂く事もございますのでご了承下さい。

演目解説

能

三輪（みわ）

大和の国三輪の山陰に隠棲している玄賓僧都（ワキ）のもとに、毎日樒閼伽の水（修験に必須の清浄な水に香木の葉・樒を添えて供える）を汲んで訪れる女（前シテ）がいる。秋は深まり山里は淋しさの極みを見せている。女が夜寒を凌ぐための衣を僧都に乞い得て帰ろうとするのを、玄賓は呼び留めて住みどころを尋ねる。「住みかは三輪の里の山里に近い所です。門に杉が立っている所を尋ねて下さい。」と答えて女は姿を消す。

代って里人（間狂言）が登場し、七日の願掛けを三輪明神にして満願を果たして喜んでいると、神木に掛かる衣を見つけて、これが玄賓僧都のものだと気づく。草庵を訪ねたこの男が衣のことを玄賓に告げ、玄賓が先程の女との子細を語れば、さては三輪明神に違いないとなって、玄賓は草庵を出て、衣のかかっている神木を見に行く。

衣には金泥で文字が印されていた。「三つの輪は人の三つの業の印。この衣はその迷いを導く清浄なもので、施しを受けた者も送った者も無心でいなければならない。」というその歌に僧都が感じ入っていると、杉の木陰から声が聞こえて三輪明神（後シテ）が現れる。「そもそも神代の昔物語は、末世に苦しむ衆生を救うために語り聞かせるのです。」と、三輪の里に住む女のもとに何年も通った男が、実は神の使いの蛇（詞章ではそれとは言わないけれど…）だった話を語り、続けて岩戸隠れの神代の物語に導かれて神楽を舞う。最後に伊勢と三輪の神は一体のものと語って夜が明ける。

狂言

痩松（やせまつ）

痩松というのは盗人の隠語で、仕事がはかばかしくないこと。今日こそはと通りがかりの女を長刀で脅す山賊だが、女に長刀を奪われ立場は逆転…

仕舞

菊慈童（きくじどう）

周の穆王に仕えた侍童が、法華経の偈文に滴り落ちた菊の露を飲んで、七百歳の寿命を得た。慈童は、仙境を訪れた魏の文帝の勅使の前で、不老長寿の目出度さを舞う。

雨月　中入前（うげつ　なかいりまえ）

西行法師が住吉に詣り、老夫婦に宿を借りる。軒が崩れているようなあばら屋だったが、雨や月の風情を楽しむためだと言う。折しも村雨が通り過ぎ、主の尉（老人のこと）は濡れそぼった落葉をかき集めて、雨の名残に思いを深める。

錦木　キリ（にしきぎ　きり）

みちのくは狭布の郡に、夜毎錦木を門に立てて求婚する風習があった。千日の願いも通じずに憤死してしまった男の亡霊が、死後願いを遂げて歓びの舞を舞う。

能

藤戸（ふじと）

佐々木盛綱（ワキ）が藤戸の合戦で先陣の功を立て、その恩賞として得た児島の領主として、意気揚々と領地にやって来る。さっそく下人（間狂言）に命じて、訴訟のある者は訴えを聞くと触れを出す。

まもなく漁師の母親らしい女（前シテ）がやってきて「老いの波が（私を）越えて淵（藤戸）となり、明けても暮れても昔の春の楽しさが戻ってこないかと願っています。あなたが波に沈めた我が子を返して下さい。」と訴える。最初は身に覚えのないこととしてやり過ごそうとした盛綱だったが、母親の切々たる訴えに心を動かされ、その所業を認め、その夜の有様を詳細に語り聞かせる。母の悲しみはいっそう深まって、「いっそ我が子と同じに殺して欲しい」と盛綱に迫るが、払い除けられて、「我が子返させ給え」と泣き伏してしまう。

盛綱は深く同情して、母と妻子の生計を保証し、漁師の弔いを約束する。母は下人に送られてすごすごと帰って行く。

盛綱が弔いをしていると、漁師の幽霊（後シテ）が現れる。藤戸の浅瀬を教えたのが三途の川を渡る因果だったのだと、身におこった不条理を嘆き、盛綱に恨みを言い募る。やがて二人はあの夜の出来事を詳細に語り合い、漁師の幽霊はその有様を再現して見せる。

「本来なら恩賞を賜わって然るべきなのに、浮洲の岩陰に連れて行かれ、氷のような刀で胸を刺し通され、海に沈められた。死体は引き汐に流されて水底に沈み、いっそ悪龍の水神となって恨みを果たそうと思っていたが、思いもかけず弔いを受けて、魂を浄土に運ぶ船に乗り成仏することが出来た。」

漁師の幽霊は合掌して姿を消す。

2025.
9.28（日）**PM1:00**（正午開場）
矢来能楽堂

〒162-0805 新宿区矢来町 60
☎ 03-3268-7311

地下鉄東西線神楽坂駅下車　矢来口より徒歩２分
都営大江戸線牛込神楽坂駅　A1 出口より徒歩５分
駐車場はございません。
近隣のコイン駐車場をご利用下さい。

入場料（全自由席）

会員券（年４回）	一般 20,000 円	学生 10,000 円
１回券（当日券）	一般 6,000 円	学生 3,000 円

申込先：各出演能楽師または緑泉会まで

中所　宜夫　TEL&FAX　042-550-4295
鈴木　啓吾　TEL&FAX　03-3269-7018

令和7年 第4回例会　12月6日（土）
能……楊貴妃 Youkihi ……桑田　貴志
能……邯　鄲 Kantan ……新井 麻衣子